

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	子宮腔上部切断術後子宮頸癌に関する検討
	研究目的	子宮腔上部切断術は、子宮頸部腔上部で子宮を切断して子宮体部を摘出する術式である。尿管・膀胱処理が不要で子宮全摘術より手術手技が簡便である。一方で残存した子宮頸部より悪性腫瘍が発生するリスクが残るため、子宮筋腫などの子宮体部良性腫瘍の子宮全摘困難症例や産科的合併症の止血不能な強出血に対する緊急症例に限られる。 子宮腔上部切断術後に子宮頸癌が発生した症例に関する報告は少ない。 1990年1月～2017年10月までに当院で治療された子宮腔上部切断術後子宮頸癌症例を調査し、臨床像、治療法、予後を明らかにすることが目的である。
	研究期間	西暦 2017 年 10 月 19 日 ～ 西暦 2019 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	近内勝幸
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	婦人科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	記載して下さい